

Enterprise Vault™ Skype for Business のアー カイブの設定

12.3

Enterprise Vault™: Skype for Business のアーカイブの設定

最終更新日: 2018-02-08。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	6
	本書について	6
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	6
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	9
第 2 章	Skype for Business のアーカイブの概要	10
	Skype for Business アーカイブについて	10
	Skype for Business アーカイブの概要	11
	Skype for Business アーカイブのライセンスについて	12
第 3 章	Skype for Business アーカイブのインストール	13
	Enterprise Vault Skype for Business アーカイブコンポーネントのインス トールについて	13
第 4 章	Skype for Business のアーカイブの設定	14
	Skype for Business アーカイブの設定手順	15
	Skype for Business アーカイブデータベースのデータの管理	15
	アーカイブの作成	16
	ロールベースの管理 (RBA) と Skype for Business アーカイブ	17
	Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り 当て	18
	ウィザードを使用した Skype for Business アーカイブの設定	18
	Skype for Business アーカイブの手動設定	19
	SMTP アーカイブタスクの設定	19
	保持カテゴリの設定	23
	新しい Skype for Business アーカイブターゲットの追加	25
	Skype for Business アーカイブターゲットの編集	27
	管理コンソールを使用した Skype for Business アーカイブターゲット の編集	28
	PowerShell を使用した Skype for Business アーカイブターゲットの 編集	29
	利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットの一覧表示	30
	管理コンソールを使用して利用可能な Skype for Business アーカイ ブターゲットを一覧表示する	30

PowerShell を使用して利用可能な Skype for Business アーカイブ ターゲットを一覧表示する	30
Skype for Business アーカイブターゲットの削除	31
Skype for Business ターゲットの無効化	31
エクスポート済みのすべての対話がアーカイブされていることを確認 する	32
Skype for Business アーカイブターゲットの削除	32
Skype for Business プロセスの監視	33
Skype for Business アーカイブの使用状況レポートの生成	34
Skype for Business の会話のアーカイブに使用する Enterprise Vault サーバーの変更	34
権限について	34
新しい Enterprise Vault サーバーを使用するように Skype for Business ターゲットを更新する	35
古い Enterprise Vault サーバーでの SMTP アーカイブタスクの停止	36
Skype for Business アーカイブでの Compliance Accelerator または Discovery Accelerator の使用	37
Accelerator 製品で Skype for Business ユーザーの SIP アドレスを 取得できることを確認する	37
Compliance Accelerator が Skype for Business の会話の正しい移 動先を判断できることを確認する	38

付録 A

Skype for Business の PowerShell コマンドレット	39
Skype for Business のコマンドレットについて	39
Skype for Business コマンドレットの実行	39
Get-EVSkypeForBusinessTarget	40
New-EVSkypeForBusinessTarget	43
Remove-EVSkypeForBusinessTarget	49
Set-EVSkypeForBusinessTarget	51

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [本書について](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

本書について

このマニュアルでは、**Enterprise Vault Skype for Business** のアーカイブを設定して、**Microsoft Skype for Business** の会話をアーカイブする方法について説明します。

このマニュアルは、次のことを前提にしています。

- **Microsoft Skype for Business** をインストールして設定している。詳しくは、オンラインで [Skype for Business のマニュアル](#) を参照してください。
- 管理コンソールや PowerShell 管理シェルのなど、多数の **Enterprise Vault** 機能に関する知識がある
- **Microsoft Windows Server** を管理する方法を理解している
- ストレージハードウェアを管理する方法を理解している

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。 ■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。

マニュアル	コメント
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Skype for Business のアーカイブの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Skype for Business アーカイブについて](#)
- [Skype for Business アーカイブの概要](#)
- [Skype for Business アーカイブのライセンスについて](#)

Skype for Business アーカイブについて

Enterprise Vault では、Skype for Business Server 2015 と Lync Server 2013 のインスタントメッセージング (IM) と会議 (ミーティング) の通信をアーカイブできます。これにより、業界および政府の規制で指定されている法規制順守の必要条件をサポートできます。

Enterprise Vault は次をアーカイブします。

- ピアツーピアのインスタントメッセージ
- マルチパーティインスタントメッセージの会議 (ミーティング)
- アップロードされたコンテンツ (配布資料など) およびイベント関連コンテンツ (参加、退席、アップロード、共有、表示の変更など) を含む会議のコンテンツ
- 会議中に共有されるホワイトボード、投票、質疑応答の各セッション

メモ: ホワイトボードや投票などの一部の会議機能のデータは、専用の Microsoft XML 形式で格納されます。Enterprise Vault はこの XML にインデックス付けできないため、これらのアイテム内のテキストは検索できません。また、Enterprise Vault はこれらを視覚的な形式で表示することができません。

Enterprise Vault は次をアーカイブできません。

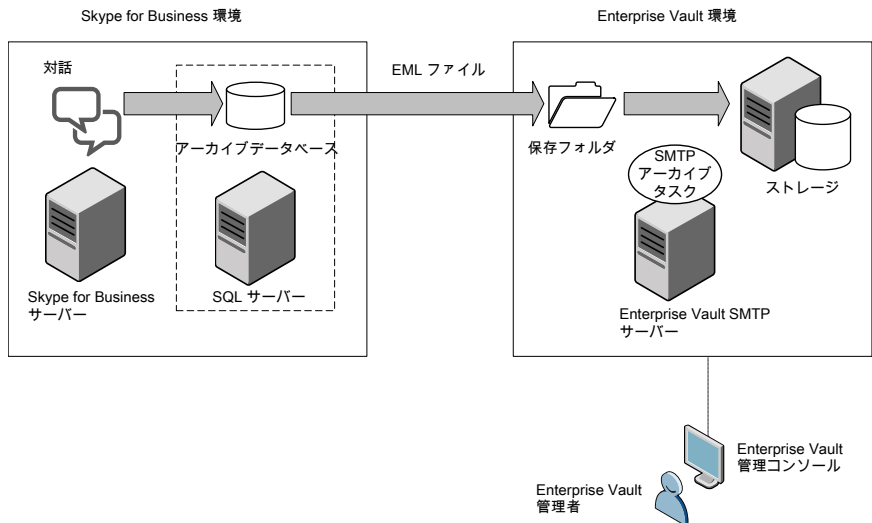
- 常設チャットの対話
- ピアツーピアのファイル転送
- ピアツーピアのインスタントメッセージと会議のオーディオとビデオ
- ピアツーピアのインスタントメッセージと会議のデスクトップとアプリケーションの共有
- Microsoft Exchange Server ストレージ経由で収集されたアイテム

Skype for Business アーカイブの概要

Enterprise Vault による Skype for Business のアーカイブでは、Skype for Business Server と Enterprise Vault の環境がリンクされます。Skype for Business におけるアーカイブがユーザーグループまたは個人に対して有効になっていること、および適切なユーザーレベルのアーカイブポリシーが適用されていることが前提になっています。Enterprise Vault では、SQL Server ストアに対話をアクティブにアーカイブするように Skype for Business を構成する必要があります。これらの対話は、アーカイブ用の EML ファイルとして Enterprise Vault 環境に転送されます。

図 2-1 に、Skype for Business の対話をアーカイブする際のプロセスを示します。

図 2-1 Skype for Business アーカイブの概要



アーカイブのプロセスは次のとおりです。

- 1 対話は **Skype for Business** のユーザー間で行われます。
- 2 **Skype for Business** は、**Skype for Business** のアーカイブポリシーに基づいて対話をデータベースにアーカイブします。
- 3 **Enterprise Vault** は、データベースから保存フォルダに対話を電子メールファイル (.eml) としてエクスポートします。対話ごとに 1 つの .eml ファイルが作成されます。
- 4 **Enterprise Vault** はデータベース内の対話にページ済みとマーク付けします。
- 5 **SMTP** アーカイブタスクは、保存フォルダ内の電子メール (.eml) ファイルを処理して、**Skype for Business** ターゲットに指定されているアーカイブに保存します。このタスクの処理時に、ターゲットのプロパティに指定されている保持カテゴリまたは保持計画が適用されます。

Skype for Business アーカイブのライセンスについて

Skype for Business から対話をアーカイブするにはライセンスが必要です。ライセンスについて詳しくは、『インストール/設定』を参照してください。

Skype for Business アーカイブのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Skype for Business アーカイブコンポーネントのインストールについて](#)

Enterprise Vault Skype for Business アーカイブコンポーネントのインストールについて

Enterprise Vault インストールプログラムは、Skype for Business アーカイブコンポーネントを自動的にインストールします。インストール中に特別なオプションを選択する必要はありません。必要なソフトウェア、Enterprise Vault のインストール、構成、および初期設定の実行方法に関する詳細な手順については、『インストール/設定』を参照してください。

Enterprise Vault の初期設定が完了したら、このマニュアルの説明に従って Skype for Business アーカイブの機能を設定できます。既存の Enterprise Vault サーバーに Enterprise Vault Skype for Business アーカイブコンポーネントをインストールする場合は、既存のボルトストアとアーカイブを使うか、または Skype for Business コンテンツ専用のボルトストアとアーカイブを作成します。Enterprise Vault は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

Skype for Business のアーカイブの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Skype for Business アーカイブの設定手順](#)
- [Skype for Business アーカイブデータベースのデータの管理](#)
- [アーカイブの作成](#)
- [ロールベースの管理 \(RBA\) と Skype for Business アーカイブ](#)
- [Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て](#)
- [ウィザードを使用した Skype for Business アーカイブの設定](#)
- [Skype for Business アーカイブの手動設定](#)
- [Skype for Business アーカイブターゲットの編集](#)
- [利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットの一覧表示](#)
- [Skype for Business アーカイブターゲットの削除](#)
- [Skype for Business プロセスの監視](#)
- [Skype for Business アーカイブの使用状況レポートの生成](#)
- [Skype for Business の会話のアーカイブに使用する Enterprise Vault サーバーの変更](#)
- [Skype for Business アーカイブでの Compliance Accelerator または Discovery Accelerator の使用](#)

Skype for Business アーカイブの設定手順

表 4-1 に、Skype for Business アーカイブを設定するために必要な手順を示します。

表 4-1 設定処理の手順

手順	処理	説明
手順 1	Skype for Business Server で前提条件となる設定タスクが実行済みであることを確認します。	インストール/設定ガイドの「Skype for Business アーカイブの前提条件」を参照してください。 p.15 の「 Skype for Business アーカイブ データベースのデータの管理 」を参照してください。
手順 2	Skype for Business の対話を格納する Enterprise Vault アーカイブを作成します。	p.16 の「 アーカイブの作成 」を参照してください。
手順 3	適切なロールベースの管理 (RBA) ロールを割り当てます。	p.17 の「 ロールベースの管理 (RBA) と Skype for Business アーカイブ 」を参照してください。
手順 4	Skype for Business の対話をエクスポートするために必要な権限を割り当てます。	p.18 の「 Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て 」を参照してください。
手順 5	ウィザードを使用するか、または手動で Skype for Business アーカイブを設定します。	p.18 の「 ウィザードを使用した Skype for Business アーカイブの設定 」を参照してください。 p.19 の「 Skype for Business アーカイブの手動設定 」を参照してください。

管理コンソールまたは Enterprise Vault PowerShell cmdlet のどちらかを使用する場合も、設定手順は示された順序で実行する必要があります。

Skype for Business アーカイブデータベースのデータの管理

Enterprise Vault Skype for Business アーカイブの前提条件となる設定については、『インストール/設定』ガイドで説明しています。この準備を行う際には、対話を SQL データベースにアーカイブするように Skype for Business サーバーを設定する必要があります。Enterprise Vault Skype for Business アーカイブを起動すると、Enterprise Vault は対話を SQL データベースから Enterprise Vault サーバー上の SMTP 保存フォルダにエクスポートします。

SQL データベースでの対話の保存を避けるためには、Enterprise Vault Skype for Business アーカイブの設定を完了してから、SQL データベースへのアーカイブを有効にします。Set-CsArchivingConfiguration PowerShell cmdlet を使用して、Skype for Business サーバーから SQL データベースへのアーカイブを有効または無効にできます。

Skype for Business SQL データベース内の対話のバックログを表示するには、Skype for Business cmdlet Export-CSArchivingData を、-WhatIf パラメータを指定して実行します。この cmdlet は、Skype for Business サーバーの管理シェルで使用できます。次の cmdlet 例では、SQL サーバー (SQLserver01.example.com) 上のアーカイブ SQL データベースに 2013 年 11 月 1 日以降に記録されたアイテムの数が表示されます。

```
Export-CsArchivingData -Identity  
"ArchivingDatabase:SQLserver01.example.com" -OutputFolder  
"C:\ExportedData" -StartDate 11/1/2013 -WhatIf
```

Export-CSArchivingData cmdlet について詳しくは、Get-Help cmdlet を使用する
か、<https://technet.microsoft.com/en-us/library/gg398452.aspx> を参照してください。

既存の Skype for Business アーカイブ SQL データベースを Enterprise Vault のアーカイブに使用する場合、データベースにレガシーデータが含まれている可能性があります。不要なデータを Enterprise Vault に格納しないようにするには、

Invoke-CsArchivingDatabasePurge cmdlet を使用してデータベース内の不要なデータを削除してから、Enterprise Vault Skype for Business アーカイブを開始します。この cmdlet は、Skype for Business サーバーの管理シェルで使用できます。次の cmdlet 例では、SQL サーバー (SQLserver01.example.com) 上の Skype for Business アーカイブデータベース内の 24 時間以上経過したアーカイブデータをすべて削除します。

```
Invoke-CsArchivingDatabasePurge -Identity  
"service:ArchivingDatabase:SQLserver01.example.com"  
-PurgeArchivingDataOlderThanHours 24 -PurgeExportedArchivesOnly $False
```

Skype for Business でアーカイブデータのページを管理する方法について詳しくは、
<https://technet.microsoft.com/en-gb/library/dn933895.aspx> を参照してください。

Invoke-CsArchivingDatabasePurge cmdlet について詳しくは、Get-Help cmdlet
を使用するか、<https://technet.microsoft.com/en-us/library/jj204627.aspx> を参照してください。

アーカイブの作成

Skype for Business ターゲットを作成する場合は、会話を保存するアーカイブとターゲット
トを関連付けます。既存のアーカイブを選択することも、新しいアーカイブを作成すること

もできます。**Compliance Accelerator** サンプルングとの互換性を保つため、SMTP アーカイブを使用することを推奨します。

Compliance Accelerator または **Discovery Accelerator** を使用してアーカイブ済みの **Skype for Business** コンテンツの検索を実行する場合は、アーカイブのインデックスレベルを[完全]に設定します。

アーカイブを作成するには

- 1 管理コンソールの左側のペインで、[アーカイブ]コンテナが表示されるまで、**Enterprise Vault** サイト階層を展開します。
- 2 [アーカイブ]コンテナを展開してさまざまな種類のアーカイブを表示します。
- 3 [SMTP]を右クリックして[新規作成]、[アーカイブ]の順に選択します。
アーカイブの新規作成ウィザードが起動します。
- 4 ウィザードの質問に答えてアーカイブを作成します。次の情報を指定するように求められます。
 - アーカイブ用のボルトストア
 - 使用するインデックスサービスとインデックスレベル
 - 課金用アカウント

ロールベースの管理 (RBA) と Skype for Business アーカイブ

Skype for Business アーカイブを管理するには、SMTP 管理タスクを実行できる RBA ロールが必要です。デフォルトでは、次のロールがこの権限を持っています。

- メッセージ管理者
- メイン管理者
- SMTP 管理者

デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクは、必要な権限がすでに割り当てられているボルトサービスアカウントで動作します。異なるアカウントを使用する場合は、SMTP 管理者とタスクアプリケーションのロールが必要です。**Enterprise Vault 12.2** 以降を使っているユーザーには、これらのロールが自動的に割り当てられます。ただし、以前のバージョンの **Enterprise Vault** で特定のユーザーアカウントで実行されるように SMTP アーカイブタスクが設定されている場合は、これらのロールをユーザーアカウントに手動で割り当てる必要があります。これらのロールは `Add-EVRBARoleMember` cmdlet で割り当てることができます。詳しくは、『PowerShell Cmdlet』ガイドを参照してください。

ロールベースの管理について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て

Skype for Business ターゲットを設定するときに、Enterprise Vault が Skype for Business サーバーにアクセスするために使用するユーザーアカウントを指定します。これは、デフォルトでは SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントですが、別のアカウントを指定することもできます。選択するアカウントに必要な権限は次のとおりです。

- Skype for Business ターゲットを処理するサーバーのローカル管理者グループのメンバーシップ
- Skype for Business ターゲットを処理するサーバーの「サービスとしてログオンする」権限
- Skype for Business ターゲットを処理するサーバーの SMTP 保存フォルダへのフルアクセス権限
- `domain\RTCCComponentUniversalServices` と `domain\RTCUniversalReadOnlyAdmins` の Skype for Business Active Directory グループのメンバーシップ

Enterprise Vault は、Active Directory グループのメンバーシップとは別に、これらすべての権限を自動的に割り当てることができます。グループにユーザーを手動で追加する必要があります。

メモ: ユーザーアカウントに権限を付与したら、該当のサーバーでタスクコントローラサービスを再起動します。

後でターゲットを修正して特定のアカウントを使わなくなった場合には、一部の権限を削除するように求められます。Active Directory グループからユーザーを削除する場合は手動で行う必要があります。

ウィザードを使用した Skype for Business アーカイブの設定

ウィザードでは、Skype for Business ターゲットを作成して、アーカイブした対話に必要な保持設定を選択する処理を、順を追って実行できます。

ウィザードを使用して **Skype for Business** アーカイブを設定するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[Skype for Business]コンテナを右クリックして、[新規]をポイントして[対象のコンピュータ]をクリックします。
 これにより、[新しい Skype for Business ターゲット]ウィザードが起動します。
- 3 ウィザードの指示に従います。

Skype for Business アーカイブの手動設定

表 4-2 に、Skype for Business アーカイブを手動で設定するために実行する必要がある手順を示します。

表 4-2 手動設定処理の手順

手順	処理	説明
手順 1	SMTP アーカイブタスクを作成して、SMTP 保存フォルダを設定します。	p.19 の「 SMTP アーカイブタスクの設定 」を参照してください。
手順 2	保持カテゴリまたは保持計画を適用します。	p.23 の「 保持カテゴリの設定 」を参照してください。
手順 3	必要な Skype for Business アーカイブターゲットを作成します。	p.25 の「 新しい Skype for Business アーカイブターゲットの追加 」を参照してください。

SMTP アーカイブタスクの設定

Skype for Business アーカイブでは、SMTP アーカイブタスクが必要です。Enterprise Vault サーバーは SMTP アーカイブタスクを 1 つのみホストできます。各アーカイブタスクは、独自のローカル SMTP 保存フォルダを必要とします。

アーカイブタスクの実行に使用するアカウントには、保存フォルダのフルアクセス権が必要です。

p.18 の「[Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て](#)」を参照してください。

メモ: Skype for Business アーカイブには SMTP アーカイブタスクを使用しますが、Enterprise Vault SMTP サーバーをインストールしたり設定したりする必要はありません。

SMTP アーカイブタスクを設定するには

- 1 管理コンソールを開き、Enterprise Vault[サーバー] > [サーバー] > [タスク]に移動します。
- 2 [タスク]コンテナを右クリックして、[新規]、[SMTP アーカイブタスク]の順に選択して[新しい SMTP アーカイブタスク]ウィザードを開始します。
- 3 SMTP アーカイブタスクの必要な情報 (SMTP 保存フォルダに適切なフォルダなど) を入力します。

SMTP アーカイブタスクでは、保存フォルダにある .eml 対話ファイル进行处理します。このタスクでは、各ファイル調べてファイルがアーカイブ対象かどうかを判断します。このタスクでは、ターゲットの設定に従って対話をアーカイブします。

タスクで対話が正常にアーカイブされると、対話ファイルは保存フォルダから削除されます。

SMTP アーカイブタスクは継続的に実行されます。タスクを停止すると、関連付けられた Skype for Business ターゲットからのアイテムのエクスポートも停止します。

アーカイブタスクでは、保存フォルダにファイルを保存するときに一定の間隔でチェックポイントが実行されます。タスクのプロパティの[詳細]タブでチェックポイント間隔を変更できます。

SMTP 保存フォルダについて

各 SMTP アーカイブタスクには固有の保存フォルダが必要です。Enterprise Vault は、アーカイブタスクの処理として Skype for Business の会話を .eml ファイルで保存フォルダにエクスポートします。

保存フォルダパスは次の条件に従う必要があります。

- フォルダはローカルドライブ上に置く必要があります。
- フォルダには UNC パスを指定できません。
- フォルダパスで許可される最大長は 207 文字です。
- DBCS 文字と非 ANSI 文字はフォルダのパスに含めることができません。

SMTP アーカイブタスクの実行に使うアカウントには、保存フォルダのフルアクセス権が必要です。このフォルダには機密なデータが含まれるため、他のアカウントがこのフォルダにアクセスしたり、アクセスを継承したりしないようにします。

保存フォルダはウイルススキャンから除外する必要があります。

保存フォルダは会話ファイルを保存フォルダに保存した時間に従って整理されます。時間は UTC 時間として指定されます。次に例を示します。

```
Root (Holding folder)
  26 (day of month)
```

```
15 (hour)
30 (min)
20161014102249877_1_p2p.eml (actual conversation)
20161014102337777_1_conf.eml
```

アーカイブタスクで会話ファイルをアーカイブできない場合は、保存フォルダの `Failed` という名前のフォルダに移動します。`Failed` フォルダには、必要に応じて `day`、`hour`、`minute` のサブフォルダが作成されます。会話ファイルは適切な `minute` フォルダに収められます。

次の手順では、保存フォルダの場所の変更方法を説明します。

Skype for Business アーカイブのみを設定しているサイトで保存フォルダの場所を変更する

保存フォルダの場所を変更すると、Enterprise Vault は現在のドライブの別の場所または新しいドライブに Skype for Business の対話を保存します。

Skype for Business アーカイブのみを設定しているサイトで保存フォルダの場所を変更するには

- 1 管理コンソールで、SMTP アーカイブタスクを停止します。
- 2 新しい場所に既存の SMTP 保存フォルダのツリーをコピーします。
- 3 管理コンソールで、SMTP 保存フォルダの場所を変更します。
- 4 SMTP アーカイブタスクを開始します。

Skype for Business アーカイブと SMTP アーカイブの両方を設定しているサイトで保存フォルダの場所を変更する

保存フォルダの場所を変更すると、Enterprise Vault は現在のドライブの別の場所または新しいドライブに Skype for Business の対話を保存します。

Skype for Business アーカイブと **SMTP** アーカイブの両方を設定しているサイトで保存フォルダの場所を変更するには

- 1 Enterprise Vault Administration Console で、SMTP アーカイブタスクを停止します。
- 2 [SMTP サービスの停止]を選択して[はい]をクリックします。

メモ: SMTP サービスを停止すると、接続を試行するすべてのホストが拒否されます。SMTP サービスは長時間停止しないでください。

メモ: SMTP サービスを停止しないと、SMTP メッセージを受信して保存フォルダに保存し続けます。

- 3 新しい場所に既存の **SMTP** 保存フォルダのツリーをコピーします。
- 4 管理コンソールの **SMTP** 保存フォルダの場所を変更します。
- 5 Enterprise Vault SMTP アーカイブタスクを開始します。タスクを開始すると Enterprise Vault は自動的に **SMTP** サービスを開始します。

複数の **SMTP** サーバーを構成しているサイトで場所を変更するには

- 1 Enterprise Vault Administration Console で、SMTP アーカイブタスクを停止します。
- 2 [SMTP サービスの停止]を選択して[はい]をクリックします。

メモ: SMTP サービスを停止すると、接続を試行するすべてのホストが拒否されます。SMTP サービスは長時間停止しないでください。

メモ: SMTP サービスを停止しないと、SMTP メッセージを受信して保存フォルダに保存し続けます。

- 3 新しい場所に既存の **SMTP** 保存フォルダのツリーをコピーします。
- 4 管理コンソールの **SMTP** 保存フォルダの場所を変更します。
- 5 Enterprise Vault SMTP アーカイブタスクを開始します。タスクを開始すると Enterprise Vault は自動的に **SMTP** サービスを開始します。

アーカイブ済み会話のセーフコピーの保存

Enterprise Vault は Skype for Business の会話のセーフコピーを SMTP 保存フォルダに格納しません。セーフコピーを「はい、元の場所に保持します」に設定しているボルトストアに会話をアーカイブすると、Enterprise Vault はセーフコピーをストレージキューに入れます。これらのセーフコピーの十分な容量がストレージキューの場所にあることを確認する必要がある場合があります。ストレージキューについて詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。

アーカイブタスクの概略レポート

SMTP アーカイブタスクでは、次のフォルダに Skype for Business アーカイブの概略レポートを生成します。

```
Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_namefor  
Business ¥Skype
```

タスクのエラーログレポートは、次のフォルダに作成されます。

```
Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name
```

タスクプロパティの「レポート」タブで、オプションを使用してアーカイブの概略レポートとエラーログレポートを設定できます。タスクプロパティの「詳細」タブで、レポートの更新間隔を変更できます。

保持カテゴリの設定

Skype for Business ターゲットでは、保持カテゴリを使用してアーカイブに保持する会話の時間の長さを定義します。

管理コンソールを使用して Skype for Business ターゲットを作成するときに、保持カテゴリまたは保持計画を選択するように求められます。利用できる適切なカテゴリや計画がない場合は作成できます。PowerShell を使用する場合は、既存の保持カテゴリまたは保持計画の設定を指定する必要があります。つまり、ターゲットを作成するにはどちらか 1 つがすでに存在する必要があります。

以下のセクションでは、保持カテゴリと保持計画の概要について説明します。詳しくは『管理者ガイド』の「Working with retention categories and retention plans」を参照してください。

保持カテゴリの設定を計画する方法

保持カテゴリを使用してアーカイブ済みの会話を分類できます。保持カテゴリの設定には、会話を格納する時間の長さを定義する保持期間が含まれます。

保持カテゴリには、次のことを可能にする設定も含まれます。

- 保持期間が切れた会話の自動削除を禁止
- ユーザーによる会話の削除を禁止

Enterprise Vault には、デフォルトの保持カテゴリと呼ばれる 1 つの定義済みの保持カテゴリがあります。保持期間は無期限です。

必要に応じて、その他の保持カテゴリを作成できます。次に例を示します。

- 法規定により、10 年間保持する必要がある会話があります。保持期間が 10 年間の新しい保持カテゴリを **Legal** という名前で作成します。
- 通常の **Skype for Business** の会話の詳細については、保持期間を 3 年間にすると効率的です。この場合、「**Skype chats**」という名前のもう 1 つの新しい保持カテゴリを作成して、保持期間を 3 年間に設定します。

いずれかの保持カテゴリを選択して、サイト内のすべてのアーカイブに適用するデフォルトのカテゴリにします。

保持カテゴリは、アーカイブ内の会話に割り当てられている可能性があるので削除できません。

保持計画について

保持計画を使用すると、1 つの保持カテゴリを複数の他の設定に関連付けることができます。設定には、分類ポリシーや期限切れの会話を破棄する条件が含まれます。これらの設定すべてを 1 つ以上のアーカイブに適用できます。保持計画で分類ポリシーを設定する場合は、分類ポリシーで次のことを決定します。

- **Enterprise Vault** がインデックス付けしてアーカイブした会話を分類するかどうか。
Enterprise Vault は分類タグを適用します。**Compliance Accelerator** や **Discovery Accelerator** などのアプリケーションを使用している場合は、後で検索や見直しを行うときに、このタグを使用して会話をフィルタ処理できます。
- ユーザーが手動で会話を削除する、または **Enterprise Vault** が自動的に会話を期限切れにしたときに、会話を分類するかどうか。

分類機能について詳しくは、『分類』ガイドを参照してください。

保持計画をアーカイブに適用すると、格納されている会話の保持期間をより詳細に制御できます。具体的には、保持計画を使用して、すでにアーカイブされている会話を破棄できます。**Enterprise Vault** が最初に会話をアーカイブするときに適用した保持期間とは別の保持期間を指定できます。たとえば、会話に関連付けられている保持カテゴリに従って、対象の会話を期限切れにする保持計画を設定できます。通常は、**Enterprise Vault** が最初に設定した保持カテゴリに従って会話が期限切れになります。

Skype for Business ターゲットに **SMTP** アーカイブを使用する場合は、ウィザードまたは **PowerShell** を使用してターゲットを作成するときに保持計画または保持カテゴリを指定できます。

Skype for Business ターゲットで別の種類のアーカイブを使用する場合は、ターゲットを作成するときにターゲットの保持カテゴリを指定する必要があります。保持計画を使用する場合はターゲットを作成して、**Set-EVArchive PowerShell** コマンドレットを使って計画をアーカイブに関連付けます。

新しい Skype for Business アーカイブターゲットの追加

新しい Skype for Business アーカイブターゲットを追加するには、以下を指定する必要があります。

- Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。これは、フロントエンドプールではなく、個々の Skype for Business コンピュータの完全修飾ドメイン名にする必要があります。
- Skype for Business アーカイブターゲットを処理する Enterprise Vault サーバー。
- Skype for Business から会話をエクスポートするときに使用するユーザーアカウント。デフォルトではボルトサービスアカウントになりますが、適切な権限を持つユーザーを指定できます。p.18 の「[Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て](#)」を参照してください。
- Skype for Business アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。
- Skype for Business アーカイブターゲットに関連付けるアーカイブ。

メモ: Skype for Business アーカイブターゲットを設定するには、まず Enterprise Vault からアクセスできるように Skype for Business サーバーを設定する必要があります。

SMTP アーカイブタスクを実行している場合にエクスポート機能を有効にすると、Enterprise Vault はターゲットのデータのアーカイブをすぐに開始します。

管理コンソールを使用した新しい Skype for Business アーカイブターゲットの追加

管理コンソールの[新しい Skype for Business ターゲット]ウィザードを使用して、新しい Skype for Business アーカイブターゲットを追加します。

管理コンソールを使用して新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットを追加するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[Skype for Business]コンテナを右クリックして、[新規]をポイントして[対象のコンピュータ]をクリックします。
これにより、[新しい Skype for Business ターゲット]ウィザードが起動します。
- 3 最初の画面で[次へ]をクリックします。
- 4 [Enterprise Vault サーバー]リストで、Skype for Business ターゲットに関連付ける Enterprise Vault サーバーを選択します。

- 5 現在、Enterprise Vault サーバーで SMTP アーカイブタスクをホストしていない場合は、[新規タスク]ボタンを利用できます。このボタンをクリックしてウィザードを起動して、このサーバーで SMTP アーカイブタスクを設定します。SMTP アーカイブタスクをホストしていない Enterprise Vault サーバーと Skype for Business ターゲットを関連付けることはできません。
- 6 [Skype for Business コンピュータ]フィールドに、Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名を入力します。
 たとえば、skype01.example.com です。
- 7 ターゲットを作成したらすぐに Enterprise Vault で Skype for Business の対話のアーカイブを開始する場合は、[有効化]チェックボックスにチェックマークを付けます。
 後でアーカイブを開始する場合は、[有効化]チェックボックスのチェックマークをはずします。ターゲットを作成したら、プロパティを編集してチェックボックスにチェックマークを付けて、変更を適用してアーカイブを開始します。
- 8 [次へ]をクリックします。
- 9 Skype for Business の会話を格納するアーカイブを選択します。
 Compliance Accelerator のサンプリングと互換性がないアーカイブを指定すると、Enterprise Vault は警告を表示します。Enterprise Vault によってアーカイブされた Skype for Business の会話の検索を Compliance Accelerator で実行する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。
- 10 [次へ]をクリックします。
- 11 [選択]をクリックして、Skype for Business コンピュータからエクスポートする会話に適用する保持設定を選択します。
 適切な保持カテゴリが利用できない場合は、新しい保持カテゴリを作成できます。
- 12 [次へ]をクリックします。
- 13 [完了]をクリックします。

PowerShell を使用した新しい Skype for Business アーカイブターゲットの追加

New-EVSkypeForBusinessTarget PowerShell cmdlet を使用して、新しい Skype for Business アーカイブターゲットを追加できます。

PowerShell を使用して新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットを追加するには

- ◆ Enterprise Vault 管理シェルで、New-EVSkypeForBusinessTarget cmdlet を実行して次を指定します。
 - サイト ID。-SiteId パラメータを使用します (オプション)。

- **Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。-TargetComputerFQDN を使用します。
- **Skype for Business** ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するかどうか。-Enabled を使います。
- SMTP アーカイブタスクをホストする **Enterprise Vault** サーバー。このタスクは、**Skype for Business** のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。-EVServer を使用します。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。保持カテゴリには、-RetentionCategory または -RetentionCategoryId を使用します。保持計画には、-RetentionPlan を使用します。
- **Skype for Business** ターゲットに関連付けるアーカイブ。-ArchiveType で -ArchiveId または -ArchiveName を使用します。

次に例を示します。

```
New-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com"  
-Enabled $true -EVServer 'EVServer.example.local' -RetentionCategory  
'Standard retention' -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType smtp
```

これにより、skype01.example.com が新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットとして追加されます。新しいアーカイブ先は、管理シェルでも管理コンソールでも利用できます。

サイト ID を指定しない場合に、New-EVSkypeForBusinessTarget でサイトを判別できないときは、サイト ID を入力するよう求められます。

既存の **Skype for Business** アーカイブターゲットを指定すると

New-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

Skype for Business アーカイブターゲットの編集

Skype for Business アーカイブターゲットを編集する場合は、次の設定を変更できます。

- **Skype for Business** アーカイブターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するかどうか。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットを処理する **Enterprise Vault** サーバー。
- **Skype for Business** から会話をエクスポートするときに使用するユーザーアカウント。デフォルトではボルトサービスアカウントになりますが、適切な権限を持つユーザーを指定できます。p.18 の「[Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て](#)」を参照してください。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。

- Skype for Business アーカイブターゲットに関連付けるアーカイブ。

SMTP アーカイブタスクを実行している場合にターゲットを有効にすると、Enterprise Vault はターゲットのデータのエクスポートをすぐに開始します。ただし、この後ターゲットを無効にすると、Enterprise Vault はターゲットからの新しいデータのエクスポートを停止しますが、保存フォルダに残っているデータのアーカイブは続行します。

管理コンソールを使用した Skype for Business アーカイブターゲットの編集

管理コンソールを使用して Skype for Business アーカイブターゲットを編集できます。

管理コンソールを使用して **Skype for Business** アーカイブターゲットを編集するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[Skype for Business]コンテナをクリックします。
 編集するターゲットを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
 [Skype for Business ターゲットのプロパティ]ダイアログボックスが開きます。
- 3 Enterprise Vault で Skype for Business の対話のアーカイブを開始するには、[有効化]チェックボックスにチェックマークを付けます。
 対話のエクスポートを停止する場合は、[有効化]チェックボックスのチェックマークをはずします。
- 4 [Enterprise Vault サーバー]リストで、Skype for Business ターゲットに関連付ける Enterprise Vault サーバーを選択します。
 現在、Enterprise Vault サーバーで SMTP アーカイブタスクをホストしていない場合は、[新規タスク]ボタンを利用できます。このボタンをクリックしてウィザードを起動して、このサーバーで SMTP アーカイブタスクを設定します。SMTP アーカイブタスクをホストしていない Enterprise Vault サーバーと Skype for Business ターゲットを関連付けることはできません。
- 5 [アーカイブ]タブをクリックします。
- 6 Skype for Business の対話の格納先アーカイブを変更する場合は、[アーカイブ]の隣にある[変更]をクリックして別のアーカイブを選択します。
 Compliance Accelerator のサンプリングと互換性がないアーカイブを指定すると、Enterprise Vault は警告を表示します。Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。

- 7 保持カテゴリを使用している場合に **Skype for Business** の対話に適用する保持設定を変更する場合は、[カテゴリ]の隣にある[変更]をクリックして別の設定を選択します。

適切な保持カテゴリが利用できない場合は、新しい保持カテゴリを作成できます。保持計画を使用している場合に設定を変更する場合は、アーカイブのプロパティを編集します。

- 8 [OK]をクリックします。

PowerShell を使用した Skype for Business アーカイブターゲットの編集

`Set-EVSkypeForBusinessTarget` PowerShell cmdlet を使用して、Skype for Business アーカイブターゲットを編集できます。

PowerShell を使用して Skype for Business アーカイブターゲットを編集するには

- ◆ **Enterprise Vault Management Shell** で `Set-EVSkypeForBusinessTarget` コマンドを実行して、**Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。`-TargetComputerFQDN`を使用します。新規または置き換えの設定がある場合は、それも指定します。次を含めることができます:
 - **Enterprise Vault** サーバー。`-EVServer` を使用します。
 - **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。
保持カテゴリには、`-RetentionCategory` または `-RetentionCategoryId` を使用します。保持計画には、`-RetentionPlan` を使用します。
 - **Skype for Business** ターゲットに関連付けるアーカイブ。`-ArchiveType` で `-ArchiveId` または `-ArchiveName` を使用します。
 - `-Enabled` パラメータ。**Skype for Business** ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するには `$true` を使用します。エクスポートを停止するには `$false` を使用します。

次に例を示します。

```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com"  
-ArchiveName SFBLocal -ArchiveType Exchange
```

Skype for Business アーカイブターゲット「skype01.example.com」のアーカイブを更新します。

利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットの一覧表示

設定した Skype for Business アーカイブターゲットが管理コンソールに一覧表示されます。PowerShell を使用してターゲットを一覧表示することもできます。

管理コンソールを使用して利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットを一覧表示する

管理コンソールで、利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットを一覧表示できます。

管理コンソールを使用して利用可能な **Skype for Business** アーカイブターゲットを一覧表示するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[Skype for Business]コンテンツをクリックします。

利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットが一覧表示されます。

PowerShell を使用して利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットを一覧表示する

`Get-EVSkypeForBusinessTarget` PowerShell cmdlet を使用して、利用可能な Skype for Business アーカイブターゲットを一覧表示できます。

PowerShell を使用して利用可能な **Skype for Business** アーカイブターゲットを一覧表示するには

- ◆ **Enterprise Vault** 管理シェルで、`Get-EVSkypeForBusinessTarget` コマンドを実行します。

デフォルトでは、すべての **Skype for Business** アーカイブターゲットの詳細が一覧表示されます。特定のターゲットの詳細を表示するには、**Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。

`-TargetComputerFQDN` を使用します。

次に例を示します。

```
Get-EVSkypeForBusinessTarget
```

現在のサイトのすべての **Skype for Business** アーカイブターゲットを取得します。

```
Get-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com"
```

Skype for Business アーカイブターゲット「`skype01.example.com`」の詳細を表示します。

オプションで、`-SiteId` パラメータを使用してサイト ID を指定できます。サイト ID を指定しない場合に `Get-EVSkypeForBusinessTarget` がサイトを判別できないときは、サイト ID を入力するよう求められます。

存在しない **Skype for Business** アーカイブターゲットを指定すると、`Get-EVSkypeForBusinessTarget` に失敗します。

Skype for Business アーカイブターゲットの削除

管理コンソールまたは **PowerShell** を使用して、設定した **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除できます。

警告: ターゲットを削除する前に、ターゲットを無効にして保存フォルダが空になるまで待機する必要があります。ターゲットを無効にしないと **Enterprise Vault** で削除できるようになりません。ターゲットを削除したら、**SMTP** アーカイブタスクを再起動する必要があります。この順序でこの操作を完了しないと、データが失われる可能性があります。

Skype for Business ターゲットの無効化

管理コンソールまたは `Set-EVSkypeForBusinessTarget cmdlet` を使用してターゲットを無効化すると、**Skype for Business** の対話のエクスポートを停止できます。

管理コンソールを使用して **Skype for Business** ターゲットを無効化するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[Skype for Business]コンテナをクリックします。
利用可能な **Skype for Business** アーカイブターゲットが一覧表示されます。
- 3 **Skype for Business** ターゲットをダブルクリックしてプロパティを表示します。
- 4 [有効化]チェックボックスのチェックマークをはずして[OK]をクリックします。

PowerShell を使用して、**Skype for Business** ターゲットを無効化するには

- 1 **Enterprise Vault** 管理シェルで、`Set-EVSkypeForBusinessTarget` コマンドを実行して以下を指定します。
 - **Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。`-TargetComputerFQDN` を使用します。
 - `-Enabled` パラメータの後に `$false` を指定してエクスポートを停止します。
- 2 **Yes** と入力して **Skype for Business** ターゲットの更新を確定します。

エクスポート済みのすべての対話がアーカイブされていることを確認する

ターゲットを削除する前に、エクスポート済みのすべての対話がアーカイブされていることを確認することが重要です。ターゲットを削除すると、アーカイブされていない対話は失われます。

エクスポート済みのすべての会話がアーカイブされていることを確認するには

- 1 コマンドプロンプトウィンドウを開いて、SMTP 保存フォルダに移動します。
SMTP アイテムと **Skype for Business** の会話は両方とも SMTP 保存フォルダに保存されます。
- 2 次のコマンドを入力して、**Skype for Business** の会話のファイルすべてを一覧表示します。

```
dir *_conf.eml *_p2p.eml /S
```

ファイルが一覧表示されない場合は、ターゲットを削除しても安全です。ファイルが一覧表示された場合は、コマンドを再度実行します。

Skype for Business アーカイブターゲットの削除

管理コンソールまたは **PowerShell** を使用して、**Skype for Business** ターゲットを削除できます。

管理コンソールを使用して **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[Skype for Business]コンテナをクリックします。
利用可能な **Skype for Business** アーカイブターゲットが一覧表示されます。
- 3 **Skype for Business** ターゲットを右クリックして、ショートカットメニューで[削除]をクリックします。
- 4 [はい]をクリックして、**Skype for Business** ターゲットの削除を確定します。

PowerShell を使用して **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除するには

- ◆ **Enterprise Vault** 管理シェルで、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` コマンドを実行して以下を指定します。
 - サイト ID。-SiteId パラメータを使用します (オプション)。
 - **Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。-TargetComputerFQDN を使用します。
 - テストモードでコマンドを実行するかどうか。予測される変更を実装しないで確認できます。-WhatIf を使用します。
 - 削除操作を実行する前にメッセージを表示するかどうか。確認プロンプトが表示されないようにする場合は、-Confirm:\$false を使います。

例

```
Remove-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN  
"skype01.example.com"
```

ターゲットコンピュータ **skype01.example.com** に関連付けられている **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。

```
Get-EVSkypeForBusinessTarget | Remove-EVSkypeForBusinessTarget
```

現在のサイトのすべての **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。サイト ID を指定しない場合に、`New-EVSkypeForBusinessTarget` でサイトを判別できないときは、サイト ID を入力するよう求められます。

Skype for Business プロセスの監視

Skype for Business アーカイブコンポーネントの監視は、**Enterprise Vault** によってサポートされる自動監視メカニズムに組み込まれています。

- パフォーマンス監視。[サイトプロパティ]の[監視]タブで、**Skype for Business** アーカイブコンポーネントのパフォーマンス監視を有効にできます。監視対象のアイテム

がしきい値に達すると、メッセージがアプリケーションイベントログに記録され、Enterprise Vault システムの[状態]に警告が生成されます。

- Microsoft System Center Operations Manager (SCOM). 付属の Enterprise Vault Management Pack を使用して、Skype for Business アーカイブの運用とパフォーマンスを監視できます。Enterprise Vault の監視について詳しくは、Veritas サポート Web サイトで次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100015240

Skype for Business アーカイブの使用状況レポートの生成

SMTP アーカイブ タスク概要の Skype for Business アーカイブ フォルダにレポートを生成する

`Enterprise_Vault_installation_folder¥Reports¥SMTP¥SMTP_task_namefor Business ¥Skype`します。Skype for Business アーカイブの詳しい使用状況レポートを生成する場合は、Enterprise Vault レポートコンポーネントをインストールして設定する必要があります。Enterprise Vault レポートでは、「コンテンツプロバイダのライセンスと使用状況の概略レポート」という名前のレポートに、Skype for Business アーカイブを使用してアーカイブしたデータの情報が示されます。

Skype for Business の会話のアーカイブに使用する Enterprise Vault サーバーの変更

サイトに 1 台以上の Enterprise Vault サーバーがある場合は、会話をアーカイブする Skype for Business ターゲットを別のサーバーに更新できます。

別の Enterprise Vault サーバーを使用する場合は、まず『インストール/設定』の「Skype for Business アーカイブの追加必要条件」を確認します。

権限について

Enterprise Vault は、ターゲットのプロパティで指定したユーザーアカウントを使用して Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータにアクセスします。ターゲットを更新して、新しい Enterprise Vault サーバーを更新する場合、Enterprise Vault は Skype for Business にアクセスする新しいサーバーで同じ名前のユーザーアカウントを使用します。そのため、新しいサーバーのこのユーザーアカウントには、適切な権限が必要です。

p.18 の「[Skype for Business から対話をエクスポートするために必要な権限の割り当て](#)」を参照してください。

サーバーを変更すると、**Enterprise Vault** はオプションで、以前のサーバーのユーザーに割り当てられていた権限を削除し、その後で、新しいサーバーのユーザーへのそれらの権限の追加を試みることができます。

Enterprise Vault サーバーがクラスタの一部である場合は、クラスタ内のフェールオーバーノードで、権限を手動で追加または削除する必要があります。

新しい **Enterprise Vault** サーバーを使用するように **Skype for Business** ターゲットを更新する

管理コンソールまたは **PowerShell** を使用して **Skype for Business** ターゲットを更新できます。

PowerShell を使用してアーカイブ先を更新する場合は、新しいサーバーにすでに **SMTP** アーカイブタスクが存在する必要があります。**SMTP** アーカイブタスクが存在しない場合は、**PowerShell** コマンドレットに失敗します。

管理コンソールを使用して **Skype for Business** ターゲットを更新するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[対象]ノードを見つけます。
- 2 [対象]で[**Skype for Business**]コンテナをクリックします。
- 3 編集対象のアーカイブを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
 [Skype for Business ターゲットのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [Enterprise Vault サーバー]リストで、別の **Enterprise Vault** サーバーを選択します。

Enterprise Vault、サーバーで **SMTP** アーカイブタスクが見つからない場合は、[新規タスク]ボタンを利用できます。ボタンをクリックして、**SMTP** 保存フォルダに適した場所などの **SMTP** アーカイブタスクに必要な情報を入力します。

- 5 [OK]をクリックします。

Enterprise Vault で、以前のサーバーのユーザーから権限を削除し、その後でそれらの権限を新しいサーバーのユーザーに追加するように求められます。

PowerShell を使用して **Skype for Business** ターゲットを更新するには

- ◆ **Enterprise Vault** 管理シェルの `Set-EVSkypeForBusinessTarget` を実行して `-EVServer` パラメータを更新します。次に例を示します。

```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN
"skype01.example.com" -EVServer evserver02.example.local
```

`-TargetComputerFQDN` パラメータは、**Skype for Business Server** を実行しているコンピュータを識別します。`-EVServer` パラメータは新しい **Enterprise Vault** サーバーを識別します。

Enterprise Vault で、以前のサーバーのユーザーから権限を削除し、その後でそれらの権限を新しいサーバーのユーザーに追加するように求められます。メッセージが表示されないようにするには、`-AssignPermission` および `-RevokePermission` のパラメータを使用します。

古い **Enterprise Vault** サーバーでの SMTP アーカイブタスクの停止

Skype for Business ターゲットの更新後、これ以降は古い **Enterprise Vault** サーバーを使用しない場合、古いサーバーで **SMTP** アーカイブタスクを停止できます。

警告: アーカイブするエクスポート済みの会話がすべてアーカイブされるまで待機してから **SMTP** アーカイブタスクを停止する必要があります。アーカイブが完了するまで待機しないと、データが失われる可能性があります。

エクスポート済みのすべての会話がアーカイブされていることを確認するには

- 1 古いサーバーでコマンドプロンプトウィンドウを開いて、**SMTP** 保存フォルダに移動します。

SMTP アイテムと **Skype for Business** の会話は両方とも **SMTP** 保存フォルダに保存されます。

- 2 次のコマンドを入力して、**Skype for Business** の会話のファイルすべてを一覧表示します。

```
dir *_conf.eml *_p2p.eml /S
```

ファイルが一覧表示されない場合は、**SMTP** アーカイブタスクを停止しても安全です。ファイルが一覧表示された場合は、数秒待機してから `dir` コマンドを再度実行します。

古いサーバーの **SMTP** アーカイブタスクを停止するには

- 1 管理コンソールの左ペインで **[Enterprise Vault サーバー]** ノードを見つけます。
- 2 **[Enterprise Vault サーバー]** で、古い **Enterprise Vault** サーバーをクリックします。

- 3 このサーバーの[タスク]をクリックします。
- 4 [SMTP アーカイブタスク]を右クリックして[停止]をクリックします。

Skype for Business アーカイブでの Compliance Accelerator または Discovery Accelerator の使用

Compliance Accelerator と Discovery Accelerator 両方の Enterprise Vault Accelerator 製品で、Skype for Business のアーカイブ済みの会話を検索できます。どちらの製品でも、Skype for Business の会話はインスタントメッセージタイプのメッセージとして扱われます。

Compliance Accelerator と Discovery Accelerator で Skype for Business の対話を処理するには、SMTP、Domino ジャーナルまたは Exchange ジャーナルのアーカイブを使用する必要があります。SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。

さらに、次のいくつかの設定手順を実行する必要があります。

- どちらの製品でも、Skype for Business ユーザーの SIP アドレスを取得できることを確認します。
- Compliance Accelerator の場合のみ、Skype for Business の会話の正しい移動先を判断できることを確認します。

設定手順は以下で詳しく説明します。Compliance Accelerator と Discovery Accelerator について詳しくは、付属のマニュアルを参照してください。

Accelerator 製品で Skype for Business ユーザーの SIP アドレスを取得できることを確認する

Compliance Accelerator ユーザーと Discovery Accelerator ユーザーの SIP アドレスが SMTP アドレスと異なる環境、または SIP アドレスのみがある環境では、Accelerator 製品で Active Directory から SIP アドレスを取得するように設定する必要があります。どちらの製品でも、Accelerator ユーザーのプロファイルを対応する Active Directory アカウントと同期する通常処理の一環としてアドレスを取得できます。

Active Directory から SIP アドレスを取得するように Compliance Accelerator または Discovery Accelerator を設定するには

- 1 Compliance Accelerator または Discovery Accelerator サーバーで、Accelerator マネージャの Web サイト (http://server_name/EVBAAdmin) を開きます。
- 2 ページの下部にある[システム設定]をクリックします。
- 3 [グローバル設定]ページで、[設定]リストの[プロファイルの同期]を選択します。
- 4 [Active Directory と同期するときに SIP アドレスを取得する]オプションを[オン]に設定します。

メモ

- SIP アドレスの同期を有効にすると複雑性が増すので、一部の Compliance Accelerator の検索パフォーマンスに影響することがあります。Skype for Business が有効になっているユーザーごとに、この検索で余分な電子メールアドレスを処理する必要があります。
- SIP アドレスの同期の完了後に、Enterprise Vault ストレージサーバーの Compliance Accelerator のサンプリング処理で、同期済みの SIP アドレスを考慮できるようになるまでに数分かかることがあります。遅延時間は、この処理を Compliance Accelerator カスタマーデータベースからの設定データと同期する頻度によって決まります。デフォルトでは、この頻度は 60 分に 1 回です。

Compliance Accelerator が Skype for Business の会話の正しい移動先を判断できることを確認する

Compliance Accelerator で Skype for Business の会話の参加者が会社の内部か外部かを判断するには、内部ドメインとして扱う必要がある SMTP ドメインの Enterprise Vault に通知する必要があります。このようにすると、Enterprise Vault はアーカイブされるメッセージごとにインデックスプロパティ Vault.MsgDirection の値を適切に設定できるようになります。以降、Compliance Accelerator はこれらの会話を処理するときに、Vault.MsgDirection プロパティ値から移動する方向を判断できます。詳しくは、Compliance Accelerator『管理者ガイド』の「Compliance Accelerator の電子メールアドレス処理の設定」を参照してください。

内部 SMTP ドメインのリストを送信するには

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールで、Enterprise Vault サイトの[サイトプロパティ]ダイアログボックスを開きます。
- 2 [詳細]タブの[一覧表示する設定の種類]ボックスで、[SMTP]を選択します。
- 3 [内部 SMTP ドメインのリスト]をクリックしてから、[修正]をクリックします。
- 4 内部ドメインのリストを入力し、[OK]をクリックします。

Skype for Business の PowerShell コマンドレット

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Skype for Business のコマンドレットについて](#)
- [Skype for Business コマンドレットの実行](#)
- [Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)
- [New-EVSkypeForBusinessTarget](#)
- [Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)
- [Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)

Skype for Business のコマンドレットについて

Enterprise Vault には、Skype for Business ターゲットとその設定の管理に使用できる PowerShell コマンドレットが用意されています。この付録では、利用可能なコマンドレットの参照情報を示します。『PowerShell コマンドレットガイド』でも同じ情報を参照できます。

Skype for Business コマンドレットの実行

Skype for Business のコマンドレットを実行するには、最初に Enterprise Vault 管理シェルを実行します。これにより、Skype for Business コマンドレットをシェルで利用できるようにする Enterprise Vault スナップインがロードされます。コマンドレットのヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると Get-EVSkypeForBusinessTarget の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Get-EVSkypeForBusinessTarget -detailed
```

Get-EVSkypeForBusinessTarget

Get-EVSkypeForBusinessTarget は Enterprise Vault ディレクトリで設定されている Skype for Business アーカイブターゲットに関する情報を一覧表示します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、Get-EVSkypeForBusinessTarget がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

特定の Skype for Business アーカイブターゲットの詳細を取得するには、Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。

Get-EVSkypeForBusinessTarget は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Get-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[[[-TargetComputerFQDN] <String>] [<CommonParameters>]]
```

パラメータ

表 A-1 Get-EVSkypeForBusinessTarget パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	Skype for Business アーカイブターゲットを含むサイトの ID。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。
-TargetComputerFQDN	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。

例

- Get-EVSkypeForBusinessTarget
現在のサイトのすべての Skype for Business アーカイブターゲットを取得します。
- Get-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN
"skype01.example.com"
Skype for Business アーカイブターゲット skype01.example.com の詳細を取得します。次に例を示します。
SiteId : 1ABBB8EF1474D034BB2D13C41C1275F591d10000EV01.example.com
TargetComputerFQDN : skype01.example.com
EVServer : EVServer.example.com
SMTPTaskId : 5
RetentionCategory : Default Retention Category
RetentionCategoryId :
19851E07EAEAF6442BE05ADC32C0CECED1b10000EV01.example.com


```
ArchiveName : SMTP Archive 1
ArchiveId :
141517FB2DA3BD44CB280E09E9713C8C11110000EV01.example.com
ArchiveType : SMTP
ArchiveSamplingReady : True
VaultStoreName : Express Vault Store
Enabled : False
ExportLogOnAccount : SMTP Archiving Task account (Vault Service
account)
```

出力

Get-EVSkypeForBusinessTarget は、次のプロパティを備えるタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVSkypeForBusinessTarget` のオブジェクトの配列を返します。

表 A-2 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SkypeForBusinessTarget のプロパティ

名前	種類	説明
SiteId	文字列	Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。
TargetComputerFQDN	文字列	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
EVServer	文字列	SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。
SMTPTaskId	uint32	Skype for Business データをアーカイブする SMTP アーカイブタスクの ID。
RetentionCategory	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの名前。Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画はターゲットに関連付けられたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義した保持カテゴリを会話に適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、ターゲットのプロパティで定義されている保持カテゴリになります。

名前	種類	説明
RetentionCategoryId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。 ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。
ArchiveName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの名前。
ArchiveId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの ID。
ArchiveType	オブジェクト	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの種類。
ArchiveSamplingReady	Boolean	Skype for Business ターゲットに関連付けられているアーカイブが Compliance Accelerator のサンプリングと互換性があるか (True)、互換性がないか (False)。
VaultStoreName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるボルトストアの名前。
有効化	Boolean	保存フォルダへのデータのエクスポートで Skype for Business ターゲットが有効になっているか (True)、有効になっていないか (False)。
ExportLogOnAccount	文字列	Enterprise Vault が Skype for Business ターゲットにアクセスするために使用するアカウント。デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントが使用されます。必要に応じ、Set-EVSkypeforBusinessTarget を使用して、ターゲットごとに異なるアカウントを指定できます。

関連コマンドレット

- p.43 の「[New-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.49 の「[Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.51 の「[Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

New-EVSkypeForBusinessTarget

New-EVSkypeForBusinessTarget は新しい Skype for Business アーカイブターゲットを追加します。-SiteID パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、New-EVSkypeForBusinessTarget がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

New-EVSkypeForBusinessTarget は Skype for Business アーカイブターゲットに関する情報を Enterprise Vault ディレクトリに追加します。

新しい Skype for Business ターゲットを追加するには、次を指定します。

- **Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
-TargetComputerFQDN. を使用します。

メモ: フロントエンドプールではなく、個々の Skype for Business コンピュータの完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。

- **Skype for Business** ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するかどうか。-Enabled を使います。
- ターゲットを処理する Enterprise Vault サーバー。-EVServer を使用します。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。
保持カテゴリには、-RetentionCategory または -RetentionCategoryId を使用します。保持計画には、-RetentionPlan を使用します。
- **Skype for Business** ターゲットに関連付けるアーカイブ。-ArchiveType で -ArchiveId または -ArchiveName を使用します。

既存の Skype for Business アーカイブターゲットを指定すると

New-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

-Enabled パラメータを指定してすぐにアーカイブを開始すると

New-EVSkypeForBusinessTarget が失敗して、SMTP アーカイブタスクが停止します。

New-EVSkypeForBusinessTarget は、Compliance Accelerator のサンプリングと互換性がないアーカイブが指定された場合には警告を表示します。

New-EVSkypeForBusinessTarget は、スナップイン

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
New-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[-TargetComputerFQDN] <String> [-Enabled <Boolean>] [-EVServer
```

```
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-RetentionCategoryId  
<String>] [-RetentionPlan <String>] [-ArchiveName <String>]  
[-ArchiveId <String>] [-ArchiveType <Object>] [-WhatIf] [-Confirm]  
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 A-3 New-EVSkypeForBusinessTarget パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	<p>Skype for Business アーカイブターゲットを追加するサイトの ID。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>
-TargetComputerFQDN (必須)	<p>Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。</p>
-Enabled (必須)	<p>Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するか (\$True)、開始しないか (\$False)。</p> <p>-Enabled パラメータを \$False に設定してターゲットを作成する場合は、エクスポートを開始する前に Set-EVSkypeForBusinessTarget を使ってパラメータを \$True に設定する必要があります。</p>
-EVServer	<p>SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。</p>
-RetentionCategory	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける既存の保持カテゴリの名前。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使うことができます。ただし、保持計画を指定する場合は、SMTP アーカイブのみを使うことができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategoryId パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-RetentionCategoryId	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使うことができます。ただし、保持計画を指定する場合は、SMTP アーカイブのみを使うことができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategory パラメータを指定できます。</p>
-RetentionPlan	<p>ターゲットに関連付ける既存の保持計画の名前。この計画で定義した保持カテゴリはターゲットの会話および Enterprise Vault が会話を格納するアーカイブに割り当てられます。このアーカイブに保持計画がすでにある場合は、New-EVSkypeForBusinessTarget は新しい計画をターゲットに関連付けられません。</p> <p>次のいずれも実行できませんので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 保持カテゴリと保持計画の両方を指定する ■ 非 SMTP アーカイブに保持計画を割り当てる
-ArchiveName	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の名前。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveType パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>
-ArchiveId	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の ID。</p> <p>このパラメータの代わりに ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-ArchiveType	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の種類。</p> <p>有効なアーカイブの種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DominoJournal ■ DominoMailbox ■ ExchangeJournal ■ ExchangeMailbox ■ ExchangePublicFolder ■ FileSystem ■ InternetMail ■ Shared ■ SharePoint ■ SharePointStructured ■ SMTP <p>さらに、Get-EVArchive cmdlet が返すアーカイブの種類も有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_JOURNAL ■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_MAILBOX ■ ARCHIVE_TYPE_FILE_SYSTEM ■ ARCHIVE_TYPE_INTERNETMAIL ■ ARCHIVE_TYPE_JOURNAL ■ ARCHIVE_TYPE_MAILBOX ■ ARCHIVE_TYPE_PUBLIC_FOLDER ■ ARCHIVE_TYPE_SHARED ■ ARCHIVE_TYPE_SHAREPOINT ■ ARCHIVE_TYPE_SMTP <p>Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveName パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>
-WhatIf	<p>指定すると、WhatIf がコマンドをテストモードで実行します。想定する変更を実装せずに確認できます。</p>
-Confirm	<p>cmdlet を実行する前に確認するように求められます。</p>

例

- `New-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -Enabled $True -EVServer 'EVServer.example.com' -RetentionCategory 'Standard retention' -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP`
`skype01.example.com` を新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットとして追加します。
- `$archiveType = (Get-EVArchive -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target").ArchiveType;`
`New-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -Enabled $True -EVServer 'EVServer.example.com' -RetentionCategory "SkypeForBusiness Retention" -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target" -ArchiveType $archiveType`
`Get-EVArchive` を使ってアーカイブの種類を取得して、その値を変数に保存します。保存したアーカイブの種類の値を使って新しい **Skype for Business** アーカイブターゲットを追加します。

出力

`New-EVSkypeForBusinessTarget` は、次のプロパティで構成されるタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVSkypeForBusinessTarget` のオブジェクトを返します。

表 A-4 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SkypeForBusinessTarget のプロパティ

名前	種類	説明
SiteId	文字列	Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。
TargetComputerFQDN	文字列	Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。
EVServer	文字列	SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。
SMTPTaskId	文字列	Skype for Business データをアーカイブする SMTP アーカイブタスクの ID。

名前	種類	説明
RetentionCategory	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの名前。Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画はターゲットに関連付けられたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義した保持カテゴリを会話に適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、ターゲットのプロパティで定義されている保持カテゴリになります。
RetentionCategoryId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。 ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。
ArchiveName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの名前。
ArchiveId	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの ID。
ArchiveType	オブジェクト	Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの種類。
ArchiveSamplingReady	Boolean	Skype for Business ターゲットに関連付けられているアーカイブが Compliance Accelerator のサンプリングと互換性があるか (True)、互換性がないか (False)。
VaultStoreName	文字列	Skype for Business ターゲットに関連付けるボルトストアの名前。
有効化	Boolean	保存フォルダへのデータのエクスポートで Skype for Business ターゲットが有効になっているか (True)、有効になっていないか (False)。
ExportLogOnAccount	文字列	Enterprise Vault が Skype for Business ターゲットにアクセスするために使用するアカウント。デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントが使用されます。必要に応じ、Set-EVSkypeforBusinessTarget を使用して、ターゲットごとに異なるアカウントを指定できます。

関連コマンドレット

- p.40 の「[Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.49 の「[Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.51 の「[Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

Remove-EVSkypeForBusinessTarget

`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` は、Enterprise Vault ディレクトリから Skype for Business アーカイブターゲットを削除します。`-SiteID` パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

Skype for Business アーカイブターゲットを削除するには、Skype for Business サーバーが実行されているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。

ターゲットを作成する場合は、Enterprise Vault サーバーのアカウントと関連付けます。このアカウントでは、Skype for Business ターゲットを処理するサーバーで、次の権限が必要です。

- ローカルの **Administrators** グループのメンバーシップ
- サービスとしてログオン権限
- SMTP 保存フォルダへのフルアクセス

デフォルトでは、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget cmdlet` で権限を無効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。PowerShell スクリプトの一部として `cmdlet` を実行するときに、`-RevokePermission` パラメータを追加するとこのメッセージは表示されません。

警告: ターゲットを削除する前に、ターゲットを無効にして保存フォルダが空になるまで待機する必要があります。ターゲットを無効にしないと Enterprise Vault で削除できるようになりません。ターゲットを削除したら、SMTP アーカイブタスクを再起動する必要があります。この順序でこの操作を完了しないと、データが失われる可能性があります。

存在しない Skype for Business アーカイブターゲットを指定すると、`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` は失敗します。

`Remove-EVSkypeForBusinessTarget` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

構文

```
Remove-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]
[-TargetComputerFQDN] <String> [-RevokePermission <Boolean>] [-WhatIf]
[-Confirm] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 A-5 Remove-EVSkypeForBusinessTarget パラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	<p>削除する Skype for Business アーカイブターゲットを含むサイトの ID。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>
-TargetComputerFQDN (必須)	<p>Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。</p>
-RevokePermission	<p>Enterprise Vault で、ターゲットに関連付けられている Enterprise Vault サーバーのアカウントから該当の権限を削除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルの Administrators グループのメンバーシップ サービスとしてログオン権限 SMTP 保存フォルダへのフルアクセス <p>このパラメータを \$True に設定すると、Enterprise Vault は権限を自動的に削除します。\$False に設定すると、Enterprise Vault は権限を削除しません。権限を手動で削除する必要があります。</p> <p>このパラメータを設定すると、cmdlet で権限の削除を求めるメッセージが表示されません。このパラメータを省略すると、Enterprise Vault で権限の削除を確認するメッセージが表示されます。</p>
-WhatIf	<p>指定すると、WhatIf がコマンドをテストモードで実行します。想定する変更を実装せずに確認できます。</p>
-Confirm	<p>デフォルトでは、削除操作が実行される前にプロンプトが表示されます。確認プロンプトが表示されないようにする場合は、-Confirm:\$false を使います。</p>

例

- Remove-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com"
ターゲットコンピュータ skype01.example.com に関連付けられている **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。

- `Get-EVSkypeForBusinessTarget | Remove-EVSkypeForBusinessTarget`
現在のサイトのすべての **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。
- `Remove-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RevokePermission $false`
ターゲットコンピュータ `skype01.example.com` に関連付けられている **Skype for Business** アーカイブターゲットを削除します。このとき、ターゲットに関連付けられているアカウントから権限を削除しないようにします。

関連 cmdlet

- p.40 の「[Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.43 の「[New-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.51 の「[Set-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。

Set-EVSkypeForBusinessTarget

`Set-EVSkypeForBusinessTarget` は、**Skype for Business** アーカイブターゲットのプロパティを設定または更新します。`-SiteId` パラメータを使ってサイト ID を指定しない場合で、`Set-EVSkypeForBusinessTarget` がサイトを判別できない場合は、サイト ID を入力するように求められます。

`Set-EVSkypeForBusinessTarget` は、**Enterprise Vault** ディレクトリの **Skype for Business** アーカイブターゲットの情報を設定または更新します。

Skype for Business ターゲットのプロパティを設定または更新するには、**Skype for Business Server** が実行されているコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定します。`-TargetComputerFQDN` を使用します。

メモ: フロントエンドプールではなく、個々の **Skype for Business** コンピュータの完全修飾ドメイン名を指定する必要があります。

新規または置換の設定がある場合は、それも指定します。次を含めることができます：

- **Enterprise Vault** サーバー。`-EVServer` を使用します。
- **Skype for Business** アーカイブターゲットに関連付ける保持カテゴリまたは保持計画。
保持カテゴリには、`-RetentionCategory` または `-RetentionCategoryId` を使用します。保持計画には、`-RetentionPlan` を使用します。
- **Skype for Business** ターゲットに関連付けるアーカイブ。`-ArchiveType` で `-ArchiveId` または `-ArchiveName` を使用します。

- -Enabled パラメータ。Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを今すぐ開始するには、\$True を使用します。エクスポートを停止するには \$False を使用します。
- Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するアカウントの詳細。アカウントの詳細を PSCredential オブジェクトとして指定するには、-ExportLogOnCredential を使用します。-ExportLogonAccount と -Password を使用して、文字列でユーザー名を指定し、安全を満たす文字列でパスワードを指定します。
- -RemoveExportLogonAccount パラメータ。このパラメータを指定すると、Enterprise Vault は Skype for Business ターゲットにアクセスするためにターゲットに割り当てられているアカウントの使用を停止します。Enterprise Vault は SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントの使用を開始します。

存在しない Skype for Business アーカイブターゲットを指定すると、Set-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

-Enabled パラメータを指定してすぐにアーカイブを開始すると Set-EVSkypeForBusinessTarget が失敗して、SMTP アーカイブタスクが停止します。

-EVServer パラメータを使用して新しい Enterprise Vault サーバーを指定した場合に、次のいずれかに該当するときは、Set-EVSkypeForBusinessTarget は失敗します。

- 新しい Enterprise Vault サーバーはすでに Skype for Business ターゲットをホストしています。
- SMTP アーカイブタスクは、新しい Enterprise Vault サーバーにインストールされません。

Set-EVSkypeForBusinessTarget は、Compliance Accelerator のサンプリングと互換性がないアーカイブが指定された場合には警告を表示します。Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。

Set-EVSkypeForBusinessTarget は、Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

```
Set-EVSkypeForBusinessTarget [[-SiteId] <String>]  
[-TargetComputerFQDN] <String> [-Enabled <Boolean>] [-EVServer  
<String>] [-RetentionCategory <String>] [-RetentionCategoryId  
<String>] [-RetentionPlan <String>] [-ArchiveName <String>]  
[-ArchiveId <String>] [-ArchiveType <Object>] [-ExportLogOnCredential  
<PSCredential>] [-ExportLogonAccount <String>] [-Password  
<SecureString>]] [-RemoveExportLogonAccount] [-AssignPermission
```

```
<Boolean>] [-RevokePermission <Boolean>] [-WhatIf] [-Confirm]
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 A-6 Set-EVSkypeForBusinessTarget のパラメータ

パラメータ	説明
-SiteId	<p>Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p>
-TargetComputerFQDN (必須)	<p>Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。</p>
-Enabled	<p>Skype for Business ターゲットから保存フォルダへのエクスポートを開始するか (\$True)、開始しないか (\$False)。</p> <p>SMTP アーカイブタスクを実行している場合にターゲットを有効にすると、Enterprise Vault はターゲットのデータのエクスポートをすぐに開始します。ただし、この後ターゲットを無効にすると、Enterprise Vault はターゲットからの新しいデータのエクスポートを停止しますが、保存フォルダに残っているデータのアーカイブは続行します。</p>
-EVServer	<p>SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。</p> <p>デフォルトでは、Enterprise Vault は、SMTP アーカイブタスク用に指定したユーザーアカウントを使用して Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータにアクセスします。別のユーザーアカウントを使う場合は、アカウントを -ExportLogOnCredential パラメータ、または -ExportLogonAccount パラメータで指定します。</p> <p>新しい Enterprise Vault サーバーを使用するようにターゲットを更新する場合、Enterprise Vault は新しいサーバーで同じ名前のユーザーアカウントを使用して Skype for Business にアクセスします。そのため、新しいサーバーのこのユーザーアカウントには、適切な権限が必要です。</p>

パラメータ	説明
-RetentionCategory	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける既存の保持カテゴリの名前。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使用することができます。ただし、保持計画を指定する場合は、SMTP アーカイブのみを使用することができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategoryId パラメータを指定できます。</p>
-RetentionCategoryId	<p>Skype for Business ターゲットに関連付ける既存の保持カテゴリの ID。保持カテゴリを指定する場合は、任意のアーカイブの種類を使用することができます。ただし、保持計画を指定する場合は、SMTP アーカイブのみを使用することができます。</p> <p>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。</p> <p>このパラメータの代わりに RetentionCategory パラメータを指定できます。</p>
-RetentionPlan	<p>ターゲットに関連付ける既存の保持計画の名前。この計画で定義した保持カテゴリはターゲットの会話および Enterprise Vault が会話を格納するアーカイブに割り当てられます。このアーカイブに保持計画がすでにある場合は、Set-EVSkypeForBusinessTarget は新しい計画をターゲットに関連付けられません。</p> <p>次のいずれも実行できませんので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 保持カテゴリと保持計画の両方を指定する ■ 非 SMTP アーカイブに保持計画を割り当てる
-ArchiveName	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の名前。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveType パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-ArchiveId	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の ID。</p> <p>このパラメータの代わりに ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータを指定できます。</p>
-ArchiveType	<p>Enterprise Vault がターゲットの会話をアーカイブするアーカイブ先の種類。有効なアーカイブの種類は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DominoJournal ■ DominoMailbox ■ ExchangeJournal ■ ExchangeMailbox ■ ExchangePublicFolder ■ FileSystem ■ InternetMail ■ Shared ■ SharePoint ■ SharePointStructured ■ SMTP <p>さらに、Get-EVArchive cmdlet が返すアーカイブの種類も有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_JOURNAL ■ ARCHIVE_TYPE_DOMINO_MAILBOX ■ ARCHIVE_TYPE_FILE_SYSTEM ■ ARCHIVE_TYPE_INTERNETMAIL ■ ARCHIVE_TYPE_JOURNAL ■ ARCHIVE_TYPE_MAILBOX ■ ARCHIVE_TYPE_PUBLIC_FOLDER ■ ARCHIVE_TYPE_SHARED ■ ARCHIVE_TYPE_SHAREPOINT ■ ARCHIVE_TYPE_SMTP <p>Compliance Accelerator と Skype for Business を一緒に使用する場合は、SMTP アーカイブを使用することをお勧めします。</p> <p>このパラメータとともに ArchiveName パラメータを指定する必要があります。</p> <p>ArchiveName パラメータと ArchiveType パラメータの代わりに、ArchiveId パラメータを指定できます。</p>

パラメータ	説明
-ExportLogOnCredential	<p>Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するログオン資格情報を含む PowerShell PSCredential オブジェクト。</p> <p>Get-Credential cmdlet を使用して PSCredential オブジェクトを作成できます。</p>
-ExportLogonAccount	<p>Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するユーザー名を含む文字列。このパラメータを指定する場合は、-Password パラメータも指定する必要があります。</p>
-Password	<p>Skype for Business ターゲットへのアクセスに使用するパスワードを含むセキュリティで保護された文字列。このパラメータは -ExportLogonAccount パラメータとともに使用します。</p>
-RemoveExportLogonAccount	<p>このパラメータを指定すると、Enterprise Vault は Skype for Business ターゲットにアクセスするためにターゲットに割り当てられているアカウントの使用を停止します。Enterprise Vault は SMTP アーカイブタスクに割り当てられているアカウントを使用します。デフォルトでは、ボルトサービスアカウントです。</p>
-AssignPermission	<p>Enterprise Vault で、ターゲットに関連付けられている Enterprise Vault サーバーのアカウントに必要な権限を追加できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルの Administrators グループのメンバーシップ サービスとしてログオン権限 SMTP 保存フォルダへのフルアクセス <p>このパラメータを \$True に設定すると、Enterprise Vault は権限を自動的に追加します。\$False に設定すると、Enterprise Vault は権限を追加しません。手動で追加する必要があります。</p> <p>このパラメータを設定すると、cmdlet で権限の追加を確認するメッセージが表示されません。このパラメータを省略すると、Enterprise Vault で権限の追加を確認するメッセージが表示されます。</p> <p>このパラメータは、-ExportLogOnCredential、-ExportLogonAccount、-EVServer とともに使用します。</p>

パラメータ	説明
-RevokePermission	<p>Enterprise Vault で、ターゲットに関連付けられている Enterprise Vault サーバーのアカウントから該当の権限を削除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルの Administrators グループのメンバーシップ サービスとしてログオン権限 SMTP 保存フォルダへのフルアクセス <p>このパラメータを <code>\$True</code> に設定すると、Enterprise Vault は権限を自動的に削除します。<code>\$False</code> に設定すると、Enterprise Vault は権限を削除しません。権限を手動で削除する必要があります。</p> <p>このパラメータを設定すると、cmdlet で権限の削除を求めるメッセージが表示されません。このパラメータを省略すると、Enterprise Vault で権限の削除を確認するメッセージが表示されます。</p> <p>このパラメータは、<code>-ExportLogOnCredential</code>、<code>-ExportLogonAccount</code>、<code>-RemoveExportLogonAccount</code>、<code>-EVServer</code> とともに使用します。</p>
-WhatIf	<p>指定すると、WhatIf がコマンドをテストモードで実行します。想定する変更を実装せずに確認できます。</p>
-Confirm	<p>cmdlet を実行する前に確認するように求められます。</p>

例

- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP
```

**Skype for Business** ターゲット "skype01.example.com" のアーカイブを更新します。
- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -Enabled $True
```

Skype for Business ターゲット "skype01.example.com" を更新して、保存フォルダにデータをエクスポートできるようにします。
- ```
Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -EVServer 'EVServer.example.com'
```

**Skype for Business** ターゲット "skype01.example.com" の **Enterprise Vault** サーバーを更新します。

- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RetentionCategory 'Standard retention' -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP`  
**Skype for Business** アーカイブターゲット `skype01.example.com` を新しい設定で更新します。
- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RetentionCategoryId 11B6...EV1004.example.com`  
**Skype for Business** ターゲット `"skype01.example.com"` の保持カテゴリを更新します。
- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RetentionCategoryId 11B6...EV1004.example.com -ArchiveName SFBLocal -ArchiveType SMTP`  
**Skype for Business** ターゲット `"skype01.example.com"` の保持カテゴリとアーカイブを更新します。
- `$archiveType = (Get-EVArchive -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target").ArchiveType;`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RetentionCategory "SkypeForBusiness Retention" -ArchiveName "SkypeForBusiness Archive 2015_Target" -ArchiveType $archiveType`  
`Get-EVArchive` を使ってアーカイブの種類を取得して、その値を変数に保存します。保存されているアーカイブタイプの値を使用して、**Skype for Business** アーカイブターゲットの設定を更新します。
- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
**Windows PowerShell** 資格情報ダイアログボックスを表示し、ユーザー名とパスワードを `$cred` 変数に保存します。**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。
- `$pwd = ConvertTo-SecureString "mypassword" -AsPlainText -Force`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnAccount example¥sfbadmin -Password $pwd`  
パスワードをセキュリティで保護された文字列に保存します。**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、指定したユーザー名とパスワードを使用するようにします。

- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -RemoveExportLogonAccount`

**Skype for Business** ターゲットにアクセスするためにターゲットに割り当てられているアカウントの使用を停止します。**Enterprise Vault** は **SMTP** アーカイブタスクに割り当てられているアカウントを使用します。デフォルトでは、ボルトサービスアカウントです。

- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
`-AssignPermission $true`

**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。**Enterprise Vault** は、**Enterprise Vault** サーバーのアカウントに必要な権限を自動的に追加します。**Enterprise Vault** では、新しいアカウントへの権限の割り当てに関するメッセージは表示されませんが、ターゲットに以前に関連付けられた古いアカウントからの権限の削除について確認するメッセージは表示されます。

- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
`-RevokePermission $false`

**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。**Enterprise Vault** は、ターゲットに以前関連付けられた **Enterprise Vault** サーバーのアカウントから必要な権限を削除しません。**Enterprise Vault** は、新しいアカウントへの権限の割り当てに関するメッセージを表示しますが、古いアカウントからの権限の削除について確認するメッセージは表示しません。

- `$cred = Get-Credential`  
`Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -ExportLogOnCredential $cred`  
`-AssignPermission $false -RevokePermission $true`

**Skype for Business** アーカイブターゲットを更新して、**Enterprise Vault** が **Skype for Business** ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用するようにします。**Enterprise Vault** は、**Enterprise Vault** サーバーのアカウントに必要な権限を追加しません。**Enterprise Vault** は、ターゲットに以前関連付けられた **Enterprise Vault** サーバーのアカウントから該当の権限を削除します。**Enterprise Vault** は、権限の追加または削除について確認するメッセージを表示しません。

- `Set-EVSkypeForBusinessTarget -TargetComputerFQDN "skype01.example.com" -EVServer 'EVServer.example.com'`  
`-AssignPermission $false -RevokePermission $true`

Skype for Business アーカイブターゲットを更新して、新しい Enterprise Vault サーバーを使用するようにします。Enterprise Vault は、Skype for Business ターゲットに接続するときに、保存されている資格情報を使用します。また、ターゲットに以前関連付けられた Enterprise Vault サーバーのアカウントから該当の権限を削除します。新しい Enterprise Vault サーバーのアカウントに必要な権限を追加したり、権限の追加または削除について確認するメッセージを表示することはありません。

## 出力

Set-EVSkypeForBusinessTarget は、次のプロパティを持つタイプ `Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVSkypeForBusinessTarget` のオブジェクトを返します。

表 A-7 Symantec.EnterpriseVault.Admin.SkypeForBusinessTarget のプロパティ

| 名前                  | 種類  | 説明                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SiteId              | 文字列 | Skype for Business アーカイブターゲットが属しているサイトの ID。                                                                                                                                                                                              |
| TargetComputerFQDN  | 文字列 | Skype for Business サーバーを実行しているコンピュータの完全修飾ドメイン名。                                                                                                                                                                                          |
| EVServer            | 文字列 | SMTP アーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバー。このタスクは、Skype for Business のアーカイブ対象に関連付けられている会話を処理します。                                                                                                                                          |
| SMTPTaskId          | 文字列 | Skype for Business データをアーカイブする SMTP アーカイブタスクの ID。                                                                                                                                                                                        |
| RetentionCategory   | 文字列 | Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの名前。Enterprise Vault が「(From Plan)」という語句を保持カテゴリ名に追加した場合、保持計画はターゲットに関連付けられたアーカイブに適用されています。Enterprise Vault は保持計画で定義した保持カテゴリを会話に適用します。アーカイブに保持計画を割り当てていない場合、有効な保持カテゴリは、ターゲットのプロパティで定義されている保持カテゴリになります。 |
| RetentionCategoryId | 文字列 | Skype for Business ターゲットに関連付ける保持カテゴリの ID。<br><br>ターゲットに関連付けられているアーカイブに保持計画がある場合は、計画に関連付けられている保持カテゴリが優先的にターゲットに適用されます。                                                                                                                    |

| 名前                   | 種類      | 説明                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ArchiveName          | 文字列     | Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの名前。                                                                                                                                                                    |
| ArchiveId            | 文字列     | Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの ID。                                                                                                                                                                   |
| ArchiveType          | オブジェクト  | Skype for Business ターゲットに関連付けるアーカイブの種類。                                                                                                                                                                    |
| ArchiveSamplingReady | Boolean | Skype for Business ターゲットに関連付けられているアーカイブが <b>Compliance Accelerator</b> のサンプリングと互換性があるか (True)、互換性がないか (False)。                                                                                             |
| VaultStoreName       | 文字列     | Skype for Business ターゲットに関連付けるボルトストアの名前。                                                                                                                                                                   |
| 有効化                  | Boolean | 保存フォルダへのデータのエクスポートで <b>Skype for Business</b> ターゲットが有効になっているか (True)、有効になっていないか (False)。                                                                                                                   |
| ExportLogOnAccount   | 文字列     | <b>Enterprise Vault</b> が <b>Skype for Business</b> ターゲットにアクセスするために使用するアカウント。デフォルトでは、 <b>SMTP</b> アーカイブタスクに割り当てられているアカウントが使用されます。必要に応じ、 <b>Set-EVSkypeforBusinessTarget</b> を使用して、ターゲットごとに異なるアカウントを指定できます。 |

## 関連コマンドレット

- p.40 の「[Get-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.43 の「[New-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。
- p.49 の「[Remove-EVSkypeForBusinessTarget](#)」を参照してください。